

研究発表会、ご協力ありがとうございました

副校長 細井 宏一

去る1月23日（土）に、公開研究発表会を開催いたしました。全国から約700名の方に参集いただきました。参加者名簿を見ますと、北海道から沖縄まで各都道府県の記載があり、正に全国からお越しいただいたことがわかりました。

研究会は2部構成としました。第1部では「アクティブラーニングの実践」とし、国語、算数、理科、社会、音楽、図工、家庭、体育、英語について、合計で19本の研究授業を行い、協議会をいたしました。活発な議論が展開されました。

第2部では「国際バカロレア教育（IB）PYPの教育理念を取り入れた新しい小学校教育課程の開発」として、IB教育の小学校段階プログラムPYP（Primary Years Program）と学習指導要領の共存について考える場としました。まず、本校の研究の取組を、菊地教諭（研究推進委員長）が、体育館にて多くの参観者の前でプレゼンを行いました。その後、文科省でIB教育を推進していらっしゃる文部科学省大臣官房国際課室長の松木秀彰氏、PYPについて先進的な取り組みをしている同志社国際初等部教頭のトム・マーナー氏、そして本校が共同研究している東京学芸大学国際教育センターのセンター長の池田栄一氏をお招きして、パネルディスカッションも行いました。

我が国のIB教育は、高等学校や中学校段階でのプログラム（DP・MYP）についてはようやく広がりを見せていますが、小学校のPYPについては文科省もまだこれからという段階です。その中で今回、本校がPYPの研究に先行的に着手し、発表をいち早く行ったことは、おそらく単独の国公立小学校としては全国初であると思われる、正に国際教育の先進的な研究の取組になっています。その意味でも、文部科学省の方からも高く評価をしていただきました。ただ、まだ実際にPYPをどこまでできるのか、どう行うかは未知数です。急に大きく学校が変わるということではありません。安心してください（笑）。大泉小学校の良さをいかしつつ、新しい時代に対応した教育実践研究に、今後も教職員一同励んでいきたいと考えています。



最後となりましたが、毎年お願いしているところではございますが、今回の発表会でもPTA会長をはじめ、PTA運営委員会の皆様、常置委員会の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。ありがとうございます。たいへん寒い日であったにもかかわらず、学校内・外での案内、受付、クローク、接待、記録写真等、細かいところまでご配慮をいただきました。参観者アンケートには「PTAの方の心配りに感激した」というコメントも多く寄せられておりまして、皆様のお心配りに、改めまして深く感謝申し上げます。